発行日　2011 年 9 月 30 日

WiseNET 2011.9

発行：株式会社ワイズ
ワイズ公共データシステム(株)
連絡先：TEL.026-266-0710 FAX.026-266-0845
[URL]　http://www.wise.co.jp/

送信枚数　1 枚

＜　経審指標のせめぎ合い⑥　まとめ　＞

2011.4 月号から先月号まで「経審指標のせめぎ合い」と題して、経審改正の流れの中で経審がどのように変わってきたかを概観し、現在の経審の特徴を見てきました。昭和 63 年からの 20 数年間では、完工高競争の弊害が指摘され微調整はあるものの、**経審における完工高（X1）の比重は引き下げられてきました。**その一方で、**財務力を示す指標の比重は拡大してきました。**平成 20 年からは、財務力を示す指標の比重を拡大しつつも絶対額の指標を増やし、**大手と中小の評価を実質的に区分する方向へと進んで現在に至っています。**この中で、中間層（地場建設業者）の相対的な地位の低下が見られるようになりました。

（表 1）経審の指標の変化

指標		ウェイト	指標の態様	業界の位置関係等
経営規模（X1・X2）	完工高（X1）	比重低下		・大手は財務力の競争へ ・中間層の相対的地位低下 ・兼業大手の躍進
	自己資本額利益額（X2）	比重拡大	大手と中小の評価を実質的に分離	
経営状況（Y）		比重拡大		

・注：中間層の相対的地位低下
WiseNET2008.10 月号 ＜どんな会社が救われた？　Y 点 1,000 点以上の会社＞参照
WiseNET2008.12 月号 ＜苦悩する中間層　Y 点 1,000 点以上の会社③＞参照
兼業大手の躍進
WiseNET2009.01 月号 ＜躍進する兼業事業会社＞参照

「完成工事高は、施工能力を端的に示す量的な指標として企業評価における重要な役割を果たしており、今後もその重要性に変わりはないが、経営事項審査における完成工事高の重視は、完成工事高競争を助長し、企業の合理的な経営戦略を歪める一因となっているものと考えられ、市場において企業評価が利益を重視していることとも乖離が見られる。」（平成19年　中建審ワーキンググループ第4回経営事項審査改正専門部会）とありますように、**施工能力の評価については完工高（X1）に依存しているところもありましたが、**現在は総合評価方式のようにより**直接的に施工能力を評価する方向に向かっています。**したがって入札制度における経審の役割も低下傾向にあり、建設会社の関心は工事評点などに向いてきています。

また、財務力の関係においては、一連の改正の中で兼業大手が盤石な財務力を背景に、経審の順位を大きく上げていることが注目されています。建設投資が減少する中で経営的に異業種への参入が推奨されていますが、**経審の評価においても兼業事業の売上高、利益が点数の向上に寄与する仕組みになっています。**

現状の「経審」に不満はあってもまずは順応することが大切です。**そのキーワードは、「施工能力」と「兼業」にあると考えています。**ライバルに先んじて行動し、成功を収めることを期待しています。

ＷＩＳＥＮＥＴ編集部　松　村　　清（税理士）

「WISENET」は建設業業務支援ソフト「Wisdom（ウィズダム）」ユーザー様、ワイズ公共データシステム(株)に経営状況分析申請を頂いたお客様、又は資料のご請求を頂きましたお客様及び研修会で名刺交換をさせていただきました皆様等に経審に関する最新情報、経審書類作成のワンポイントを紹介、月一回の発行となります。
内容に関するお問い合わせ、バックナンバーの請求（99 年 2 月号～）は弊社までご連絡下さい。弊社ホームページよりバックナンバーのダウンロードができます（9 月号は 10 月 4 日より可能）。ログインIDは「1921」です。入力後、［ログイン］ボタンをクリックして下さい。 → ワイズホームページ http://www.wise.co.jp/